

2025年3月定例会について

2025年4月13日 日本共産党宇治市議員団

① 宇治市議会3月定例会は、2月19日から3月28日の38日間の会期で開かれました。

3月定例会には、2025年度の一般会計などの予算案が提案されました。一般会計予算は841億円と前年度より約100億円の増加しています。増えた要因は、来年開校予定の（仮称）西小倉地域小中一貫校の建設費に約52億円、給食センターの整備に約26億円、児童生徒のタブレットの更新に約10億円など教育関連費の増加によるものです。法人市民税は、24年度に比べ8%の減収見込みとなっています。

その一方で、借金である市債は、16%も増え、133億円となっています。

2925年度予算は、物価高騰で市民の暮らしが大変になっているにも関わらず、市民生活を守る地方自治体の役割を発揮するには不十分なもので、反対しました。

② 物価の高騰が続き、市民の暮らしが大変厳しくなっているもと、国民健康保険料は、25年度も平均で5.63%以上の値上げが提案され、2年連続で大幅な値上げが提案されました。党議員団は、保険料据え置き修正案を提出しました。

また、子育て世帯の支援を具体化するために、学校給食費の無償化をめざし当面1万円補助する条例を提案。

18歳の年度末までの医療費助成を実施する条例も提案しました。府内で18歳までの医療費助成を実施していないのは、宇治市と城陽市、京都市の3自治体だけとなりました。

こうした積極的な条例提案については、うじ未来（立憲や国民ほか）・自民・公明・維新などの反対で否決されました。

③ 「高齢になって運転免許証を返上したら、移動が不便になり病院や買い物に行くのに困る」という悲痛な声が出されています。

党議員団は、以前から「デマンドタクシー（予約制乗り合いタクシー）」の実施を繰り返し提案してきました。そうした中で、宇治市は25年度、「買物や病院通院、外出機会創出等を支援」を目的とし、「おでかけ支援実証運行事業」に取り組む予算を計上、秋から、3カ所で実証実験を行うとしています。予算は150万円です。

④ 今日、4月13日から「大阪・関西万博」が始まりました。先日、大阪・守口市の共産党議員が会場内で、着火すれば爆発の危険がある下限濃度を超えるメタンガス発生していることを、明らかにしました。会場の夢洲1区は全体が現役の廃棄物処分場で、83本のガス抜き管からメタンガスが1日に約3トン排出されています（昨年12月の調査）。今回の件は、大量のメタンが管以外からも出ており、濃度も刻々と変化していること、対策が極めて難しいことを改めて示しています。

こんな万博に宇治市は、市立の小中学校の校外学習で万博に行く場合は、バス代の補助するとして、「体験学習支援事業費」として1500万円を予算化し推奨しています。京都府はチケット代を全額補助するとしています。党議員は、「子どもたちが乗り降りする団体バス乗り場から、入場ゲートまで1キロもあり、熱中症が危惧され

ます。昼食場所やトイレも不足しており、お弁当を食べる場所も不十分」であり、校外学習として万博に行くべきでないと、中止を求めました。

⑤ 来年4月から実施をめざす中学校給食（西小倉地域の小中一貫校の小中学校給食も含む）の実実施計画（配送計画）が所管の委員会に示されました。

中学校給食は、これまでのように児童の身近な給食室で調理するのではなく、黄檗の宇治少年院跡に給食センターを建設し、そこから市内10校の中学校に配送されます。3トンの配送車1台で2校に配送する計画（西小倉地域の小中一貫校と黄檗中学校は、それぞれ1台で配送）です。配送された給食は、一旦、各校の校舎1階に整備する配膳室に運ばれ、給食時に生徒が配膳室まで取りに行きます。党議員は、『学校給食衛生管理基準』には、調理用食品は適切な温度管理を行い、調理後2時間以内に給食できるように努めること」とされている。配送計画では、調理完了が10時40分で、摂食開始が12時40分だから、『基準』をクリアしているとのことだが、4校時が終わるのは大半が12時45分だ。不可能ではないのか」との追及に、教育部長は、「計画は、全校の摂食時間を12時40分と仮に定めたシュミレーションだ。授業中に取りに行くことのないように、カリキュラム等について調整していきたい」と答弁。学校と調整もせず計画を出すなど、極めて無責任な態度です。

⑥ 教育予算は、小中一貫や給食センターの整備で増えましたが、「就学援助費」や「学校管理費」、「教材充実費」など、児童生徒1人あたり支援する予算は、軒並み減少しています。

これまでも、学校全体や学年等で使用するものは、児童生徒の保護者が負担する学級費などを使うべきでないと指摘してきましたが、いまだに、学校のトイレ清掃やボールの清掃をPTA費で拠出している学校があります。このことを指摘すると、「PTAが善意でやってもらっている」と居直る始末です。教育に必要な予算は予算化すべきです。

⑦ （仮称）西小倉小中一貫校整備事業では、掘削処分残土の処理費が、当初設計の約9千万円が3億円超に増額。残土から1.8倍の産業廃棄物が出たと説明。また、堀池地域雨水貯留管整備工事では、埋設工事をしていたら府の公共下水道管に突き当たり、工事を中断して再設計をしていました。今年度から工事を再開することになりましたが、設計変更などのために工事費は約3億円も増加しています。党議員は、こうした一連の問題について、厳しく指摘しました。

⑧ 党議員団が提出した「北陸新幹線の敦賀大阪間の延伸計画そのものの中止を求める意見書」は、うじ未来（立憲や国民ほか）・自民・公明・維新などの反対で否決され、また、「北陸新幹線敦賀・新大阪間の全線整備にあたっては、早期全線開通に向け、市民の理解が得られるよう、国において説明責任を果たされるとともに、宇治市への影響が想定される次の事項に配慮の上、慎重な事業の推進に取り組まれない。」とする「北陸新幹線敦賀・新大阪間の全線整備に関する意見書」は可決されました。

日本共産党
宇治市議員団

2025年4月20日 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所内
TEL：0774-22-3141(内線2817) 共産党議員団へのご意見・ご相談
FAX：0774-24-7884



